

考えてみれば **9 回目の受験**でようやく筆記合格である。(細かいことは忘れた！) 何年か前にかなり手ごたえがあったとき、必須問題を解かずに選択を二問解いてしまった。結果、**失格**となった。帰りの新幹線に乗る前の食事を目の前にして、“ハッと”問題を間違えたことを思い出した。自信があっただけに、しばらく呆然としたことが思い出される。あの時はかなりこたえて、しばらく引きずっていたのもであるが、今となってはいい思い出である。

あれから、2～3年たった。筆記の発表の日になり、いつものことだから落ちているかなと思っていつつ朝早く受験番号を確認した。おどろいたことに合格である。

今年は、本当に勉強していないのだ。ただ、9回も受けていると問題の分析や傾向はよくわかるようになっており、勉強することもなくなっている気がしますが。

ところが、**ここからが本当に大変**だった。

合格した瞬間、体験論文を提出しなければならなくなったのだ。何年間も書いては修正したものがあるのだが、これでいいのかわからない。やっとなつかんだチャンスを逃したらと思うと“ぞっと”するのであった。筆記不合格のときは感じなかった思いである。やはり9年の歳月は大きかった。

今年は、もしかしてという思いから筆記試験の合格発表の前に APEC さんの体験論文添削に申し込んで取り組みを開始していた。これがなかったら、体験論文の作り方を根本的に間違ふところであった。H19 年以降から考え方を変えなければならないことに、初めて気がついた。

添削の結果、前よりは良い論文ができたかなと思いつつ、ぎりぎりに論文提出をおこなった。

次は口頭試験の準備である。

なんと、私の住んでいる田舎の近くで APEC さんが口頭模擬試験をおこなうとのこと。運良く参加できて多くの収穫を得た。

模擬試験の後で、APEC さんの“大丈夫でしょう”との言葉は大変たのしく感じました。

いよいよフォーラム 8 での口答試験日である。前日に下見はしておいた。当日は 11 : 15 から試験というのに 9 : 30 には着いてしまった。

待合室は結構な広さがあり席について待つことにした。それほど、いやな雰囲気ではない。喫茶店に出て時間をつぶそうかとも考えていたが、その必要はなかった。

開始 12 分前

待ち合い室をでて、面接会場の前のイスに座り順番を待つ。
エレベータ前の部屋のため、チンチンという音になる。
前の人の面接がなかなか終わらない。時間はもう 5 分はすぎているかな？
緊張していたのか、時計をみていなかった。
しばらくして、ようやく受験生が部屋から出てきた。いよいよである。

試験開始

試験官 B : さん？

私 : はい。

試験官 B : どうぞお入りください

試験官 A : それでは試験を開始します。(試験間は 2 名である)

 まず最初に、経歴と体験論文を 10 分程度で説明ください。

1 分経過

私 : はい。

 平成 年 コンサルタント入社

 それから

2 分経過

 次に経験論文の説明をします。

 まず略記事例 1 ですが

 問題は、

 対策は

 結果は

5 分経過

 次に詳細事例です。

 業務内容は

 課題は

 問題点は

12 分経過

 説明終わり

 (緊張のため時間をみていなかった。あとで確認したら、12 分もたっていた。

 試験官 B が時計をちらっと見たのが気になる。)

試験官 A : 都市計画とのタイアップとのことですが、道路設計を担当したということですか。

私 : そうです。

試験官 A : まず、 ですが、略記 1 は ということですか？

私 : そうです。

試験官 A : ボックスはなぜ亀裂が入ったのか？

私 : 不等沈下によるものです。

次に詳細事例については・・・・・・です。

26分経過

試験官 B : 景観設計ですが、これにかかる経費はどうだったのか？

コストは通常の2倍になった。しかし、場所を絞り景観を優先すべき場所を決めたので全体から見ると大きな費用増加にはなりませんでした。

28分経過

試験官 A : この業務で今考えてみて何か問題というか課題はなかったか？

私 : をしたかったのですが、これは という施設があったため、このようにするしかありませんでした。

交差点が近接することについては、交通計画上 施設の入り口の変更まで行って対応することとしました。

29分経過

試験官 A : 経験論文の質問はこのへんにして、近年の入札制度をふまえて意見をください。

私 : 今後は総合評価方式をとりいれて、価格のみの競争から、技術力を反映した適正な競争にしていくべきだと考えます。

試験官 A : 今年度プロポーザルを何件か行ったとのことであるが、何が大変でしたか。

私 : 情報が少ない中で、提案書作成時に、なにが問題か、発注者の意図はどこにあるのかを把握するのが大変でした。

33分経過

試験官 A : 最近の公共工事削減についての意見をください。

私 : 公共工事削減が道路に集中している気がしますが、道路の渋滞緩和とか、いかに地球温暖化について貢献できるのかを証明するべきであると考えます。それができるのが技術士と考えていますし、そこまで突っ込んだ技術的見解を説明できればと思っています。

34分経過

試験官 A : 設計ミスについてどう考えどう対応していますか。

私 : 設計ミスは必ずある前提の下で、ISO もふまえて、第三者的にチェックのシステム作りとそれを効果的に機能させること。私個人としては、途中段階における考え方など、部下の業務の徹底的なチェックを心がけています。

試験官 A : ところで、若い人は言うことを聞いてくれますか？

私 : “えっ！！”(びっくりした) はい、今のところは聞いてくれています。(笑い)

36分経過

試験官 A : 倫理的なことを聞きたいと思います。工事が終わったとして、あるいは事前の

基礎調査で環境に悪い影響があるかもしれないという事実が発生した際に、技術者としてどのようにしますか？

私 : まず、発注者にそのような懸念があること、そしてその理由と、その影響について十分な説明をするべきであると考えます。

試験官 A : まず、隠さず報告するということですね。

私 : そうです。私は埋蔵文化財が工事中発生した事例をリアルタイムで見えており、当時の世論の動向と行政のやりとりを目の当たりにしました。よって、必ずそのような内容は理解してくれると思っています。

38分経過

試験官 B : 技術士法の信用失墜について聞きます。

技術者として信用失墜こんなことやっているとか、問題などはありますか。

私 : ちょっと違うかもしれませんが、地質調査が離れたものしかなく、それで設計してくれといったことはあります。この場合は、説明してみるもののどうしても納得してくれない場合は、自主的に簡易調査で確認することはあります。

試験官 B が納得していない様子である。ちょっと聞かれた内容に答えがあつてなかったかな？と思った。あとで考えると、社会的な事例を挙げればよかったかなとも思う。

試験官 A : 最後になりますが、技術士の制度はなぜ必要ですか。

私 : 技術士の制度は科学技術の発展に資するために必要です。(国民経済の発展を言い忘れた！)

40分経過

試験官 A : では時間になりましたの、これをもちまして終了します。

私 : ありがとうございます。

この日から数ヶ月後の 3月5日 官報で自分の名前を確認した。

長かった。でも、これからが技術者としてのスタートラインであるとの認識をもって望むべきことを、試験の最中に学んだ。技術者としてのあるべき姿について、取得前と取得後の大きな意識の変化である。

技術者としての意識まで変えてしまうとは、つくづくすごい試験だと思う。